

秋山清

癸禁詩集

潮文社



目次

第一章 緒言	1
第二章 基礎理論	10
第三章 基礎理論の応用	25
第四章 基礎理論の発展	40
第五章 基礎理論の応用	55
第六章 基礎理論の発展	70
第七章 基礎理論の応用	85
第八章 基礎理論の発展	100
第九章 基礎理論の応用	115
第十章 基礎理論の発展	130
第十一章 基礎理論の応用	145
第十二章 基礎理論の発展	160
第十三章 基礎理論の応用	175
第十四章 基礎理論の発展	190
第十五章 基礎理論の応用	205
第十六章 基礎理論の発展	220
第十七章 基礎理論の応用	235
第十八章 基礎理論の発展	250
第十九章 基礎理論の応用	265
第二十章 基礎理論の発展	280

詩と権力 九

アメリカ軍の検閲 九

いわゆる明治百年 七

発禁詩集と詩ブーム 三

明治社会主義と幻の詩集 二六

二つの発禁詩集をもつ児玉花外 一〇

幻の詩集『社会主義の詩』 三三

庶民の心意気『俗体詩』 六〇

『荒村遺稿』の非妥協精神 六六

大正の反逆とニヒル 七〇

根岸正吉・伊藤公敬『どん底で歌ふ』 七五

松本淳三『二足獣の歌へる』 八四

後藤謙太郎『労働放浪監獄より』 八八

遠地輝武『夢と白骨との接吻』 九三

内野健児『土嚙に描く』 九七

中浜哲『黒パン党宣言』 一〇一

二つの『社会詩人詩集』 一〇七

芸術革命からプロレタリア詩へ 一一三

岡本潤『罰当りは生きてゐる』 一一〇

『中野重治詩集』 一一〇

伊藤和『泥』 一一六

能登秀夫『都会の眼』 一二四

田木繁『松ヶ鼻渡しを渡る』 一二五

上村実『土塊』……………一六〇

世田三郎『百万人の哄笑』……………一六五

松田解子『辛抱つよい者へ』……………一七〇

手塚武『一社会人の横断面』……………一七五

農民の発禁詩集……………一七九

農民詩集の発禁……………一八二

大杉幸吉『瘦土に燃ゆる』……………一八二

定村比呂志『廃園の血脈』……………一八四

加藤吉治『野良着』……………一八六

アンソロジーの発禁詩集……………一九三

『プロレタリア歌曲集』……………一九六

童謡集『小さい同志』……………一九九

年刊『プロレタリア詩集』……………二〇三

『赤い銃火』……………二〇五

『戦列』……………二〇七

『無産者詩集』……………二一〇

『労農詩集』……………二一三

『アナキスト詩集』……………二一六

『南海黒色詩集』……………二一九

風俗壊乱……………二二三

検閲に逆襲した朔太郎……………二四〇

まず「風壊」、二度目は「紊乱」……………二四三

猥せつな寓詩……………二四七

兵隊作家の「風壊」……………二五一

発禁詩集補遺……………二五

書誌……………二六

あとがき……………二七